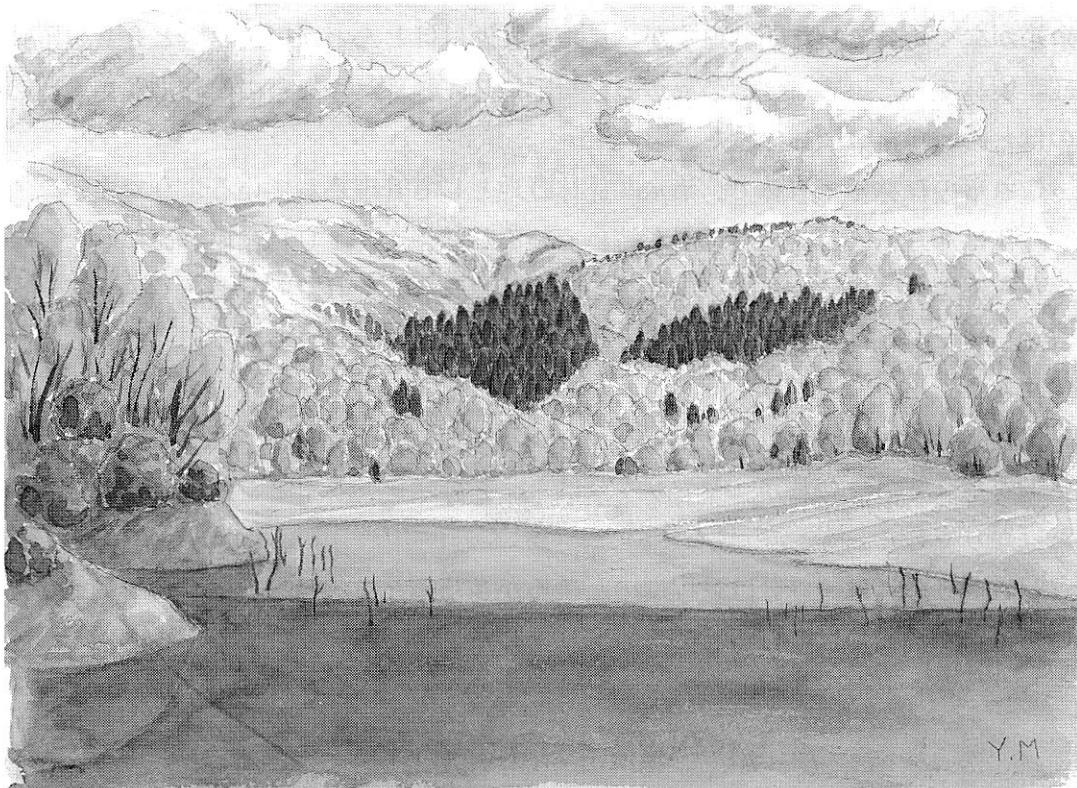


協議会ニュース

45号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

1993.5



篠田池

瀬戸の篠田池は21世紀愛知万博の会場予定地といわれる区域の中にあります。池までへの道はいくつかあるようですが、私は初めてで、それも一人で出かけたので、わかりやすい道を選びました。

聖霊短期大学の少し先の方に車を止め、そこから川沿いに約1キロメートルで堰堤に達しました。

(次ページの本文に続く)

★ 表 紙 の 絵 ★

池そのものは川の中に造られた砂防堰堤でせき止められてできた構造で、2～3ヘクタールほどの小さなものです、下流では農業などの利水があって貯水は調節されているようです。

堰堤の上からは、猿投山の南西に伸びる標高350メートルくらいの尾根筋が、約2キロメートルのところに見え、その手前の丘陵地と池から構成される風景は、なかなかのものでしたので、スケッチしてみました。

時間がなくて行き帰りの道は小走りでしたので、落葉樹の種類を色々と見分ける余裕がなく残念でしたが、道すがら見える範囲はほとんどがコナラなどを含む落葉紅葉樹林でした。また、池の周辺も、一部にスギ・ヒノキなどの植林地があるもののほとんどが落葉樹林でした。

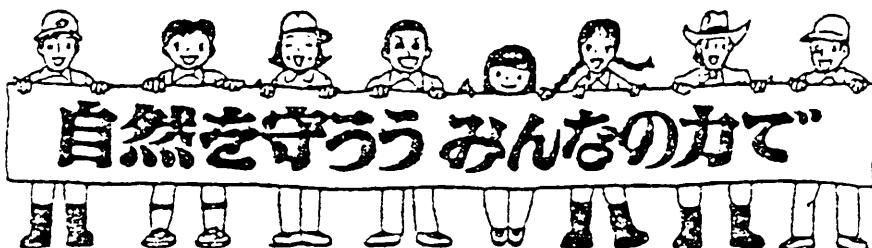
これらの森林は県有林で、治水関係林野地として管理されているようです。

今年は4月に入ってから低温が続いているため、4月10日というのにほとんどの落葉樹の新芽はやっと膨らみ始めたばかりでした。それでも日溜まりのショウジョウバカマの花はすでに終わりに近く、タチツボスミレが真っ盛りで目を楽しませてくれました。

落葉樹林の中では、コバノミツバツツジが満開で、ヤマハンノキ、キブシが長い花穂を垂れていましたが、ヤマザクラは1～2分咲き、クロモジもやっと咲き始めたばかりでした。

行き帰りの道は踏み分け道程度のところが多く、ところどころネザサが侵入していて道跡が消えかけているところもありました。

(松林 幸雄)



(神奈川県自然観察指導員連絡会の会報のカットから)



知多支部の総会



93年1月31日（日）に東海市農業センターの和室で10時から開催されました。総会の場所は昨年を除いて、毎年、東海市農業センターで行っています。これは東海市が行う自然観察会やみどりの少年団等のお手伝いをしていることから、これらの打ち合せを兼ねていることになっています。よって、会場使用の申込は東海市の公園緑政課でやっていただき、使用料は無料になっています。これは資金力のない我々の会としては大変ありがたいことです。尚、蛇足ですが、ほぼ毎月夜間室内例会を阿久比町中央公民館でやっています。これも公民館行事の自然教室等のお手伝いをしているところから、事前の打合研修をするためとして、無料になっています。

総会は10時から12時まで行い92年の行事報告、会計報告、92年の行事計画（別紙予定表）と行事担当者（別紙予定表）、役員（会長・・加藤寿芽、庶務と会計・・降幡、行事記録・・榎原靖）の選出をしました。午後は昼食を兼ねて懇親会を毎年行っています。会場は和室になっており、アルコールを少したしなみながらスライドやビデオを見て体験話をしたり、希望や抱負をなごやかに語りあっています。又、今年は会員の一人が10種以上の果実酒を持参してくれ、様々な味覚を楽しみました。

※ 知多支部の運営の様子

今までの行事報告は簡単に口頭で済ませていましたが、昨年4月に会発足から10年を記念して懇親会を兼ねた反省会をしたときに、実施内容や見掛けた生物を記録することが提案され、これを受けて榎原靖さんが1人で記録し年間記録のまとめをつくっていただきました。今年はそれぞれの行事担当者が観察記録を残してくれることになっています。

年間行事計画は12月の室内例会の時、総会で審議していただく案を作成します。以前は総会ですべて相談し、計画を決めていましたので時間がかかりましたが、事前に案を作成することにより、審議時間を短縮しています。

会費は年500円で、会運営に掛かる事務、通信費、観察に用いる道具類、観察ノート作成費、総会の時の飲食代等に支出しています。今度から会費の引上げの話題が出ましたが、各種団体からの自然観察会の委託があり、この委託料の一部を会に寄付していただくことにより会の運営が可能であり、当面据え置くことにし、今後、会の活動が活発になり、必要になれば値上げすることになりました。

知多支部 降幡光宏



花の山・藤原岳に登ろう！



尾張支部 北岡 明彦

これまで何回藤原岳登ったかな？と思って古い記録を調べて見たら、1969年(16才)に始めて登って以来、実に37回となりました。その大部分がゴールデンウィークの間で、この時期の藤原岳は、まさに『春の藤原岳』という冠詞がピッタリです。

なぜ藤原岳には花が多いのか？どのルートを通ると花がたくさん見れるのか？などを簡単に紹介して、会員のみなさんが花見登山をするときの手助けにと思います。

そのI なぜ花が多いのか？

①藤原岳は全山石灰石でできており、土壌は弱アルカリ性のため、ブナ科を中心とした高木層が発達しにくい。(日本の土壌は弱酸性の場合が多く、森林はそうした所に発達する。)

②冬の積雪が非常に多く、高木層の発達が妨げられる。→→①②の理由で高木層の発達が悪いため、低木や草本植物が育ちやすい。

③海拔150mの西藤原駅から1,165mの天狗岩まで標高差が千mちかくあるため、暖帯から温帯までの植物が見られる。

④多雪地帯特有の植物（裏日本型植物）、石灰岩地帯の植物（好石灰岩植物・耐石灰岩植物）が数多く見られる。→→裏日本型植物；ヒロハテンナンショウ・ホクリクネコノメ・ヒメモチなど、好・耐石灰岩植物；ヒメフウロ・フクジュソウ・クサボタンなど

⑤麓から歩いて登らなければならないため、盗掘が少ない。→→それでもクマガイソウ・フクジュソウなど随分数が減った。こうしたいろいろな理由から、いまの花の藤原岳が成り立っています。



そのII どのルートがよいか？

あまり登山者に会わず、ゆっくり花を楽しむには、断然坂本谷コースをお薦めします。ただし、このコースは少々体力がいりますのでご注意を！中でも白瀬峠付近から藤原山荘までの間は、雄大な景色、人の少なさ、花の多さなどで最高です。

ちょっと体力のない人、時間のない人で花をたくさん見たい人には、聖宝寺コースをお薦めします。このコースの植物もすばらしく、カタクリやエイザンスマレが多いほか、ヤマトグサの見られるのが特徴です。

最後に、急いで登ったり、下りたりするときには大貝戸コースを使います。このコースはスギ人工林を歩く部分が多く、植物的にはイマイチと言わざるを得ません。

ということで、私の推薦コースは、三岐鉄道西藤原駅（9時）→坂本谷入り口（9時40分）→白瀬峠（12時30分）→藤原山荘（15時）→西藤原駅（17時）というコースです。昨年4月29日の尾張支部特別観察会では、なんと79種類の花を確認できました。そのときの状況を参考までに紹介します。

駅から坂本谷入り口までは、ほとんど舗装道路で、ヤマブキ・シャガが目立つぐらいなため、できるだけ快足歩行して時間をかせぎます。なにしろこのコースの見所は尾根の花達にあるのですから……。

坂本谷の入り口付近に最後の水場があり、コンロンソウ・ツルカノコソウが目につきます。少しするとヤマブキソウの輝くような黄色の花が出迎えてくれます。大きな石灰岩壁を越えるころ、たいていみんなへたばります。（一息）疲れた体に元気を吹き込んでくれるのが、ニリンソウとイチリンソウの大群落で、ヤマルリソウやイカリソウ



スプリングエフェラル カタクリ



ウが見えだすと、やがて尾根に到着します。なだらかで気持ちよい尾根はカタクリの園、白瀬峠までずーっと歩きます。所々、私の好きなルイヨウボタンやサツキヒナノウスツボも顔を見せてくれます。腹ペコを我慢しながら急坂を登りきると、やっと白瀬峠、イヌブナの美しい若葉と峠を越える心地よい風、そして待望の弁当が疲れを吹き飛ばしてくれます。

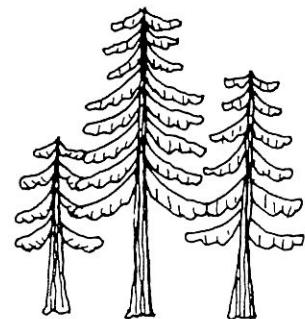
昼食後藤原岳へ向かう坂は結構きついのですが、ササ原をこぎ分けて歩くと、やがてお花畠に到着します。ニリンソウ・ヤマエンゴサクが満開で、エンレイソウ・キクザキイチゲ・ネコノメソウなどが咲き、藤原岳の植物の中で私の一番のお気に入りコバイモもたくさん咲いていて、本当に楽園の中を散歩しているみたいです。お花畠を過ぎると気持ちよいスキ草原に出て、やがて藤原山荘に着きます。

ここで最後の一息、草原に腰を下ろして今日観察できた花花の顔をもう一度思い出します。こんなときの充実感と心地よい疲れが、花の藤原岳の真骨頂かも知れません。

笑いかける膝をこらえながらひたすら下って、駅前のベンチで飲むジュースやビールのおいしさは、また格別です。電車に揺られながら、花合わせをして、ノートに名前を書き込んでいきます。自分の見ていらない植物を他の人が見ていて、悔しがる時もありますが、大抵は気持ちよく寝てしまいます。ZZZZZ・・・・。

不便さこそがすばらしい藤原岳は、やはり早起きして電車で行くのが最高です。

尾張支部では6月12日(土)に「藤原岳特別観察会」を行います。近鉄名古屋駅7時31分発松阪行き急行に、是非乗ってください。花の藤原岳が、みんなを待っています。(中止かどうかの問い合わせは北岡さんTEL0561-84-2953まで。)



簡単なウッドクラフト ⑦

名古屋支部 椿 幹雄

間伐材を利用して食卓用の箸置を作つてみませんか?

I. 準備品(1個分)

- 1) 枝(直径15mm長さ70mm程を1本)

材質は桜、桧、杉、竹等

- 2) 小刀

- 3) ノコギリ

- 4) 水性ニス

- 5) 小筆

II. 作り方

- 1) 70mmの中心35mmの所に印をつける。

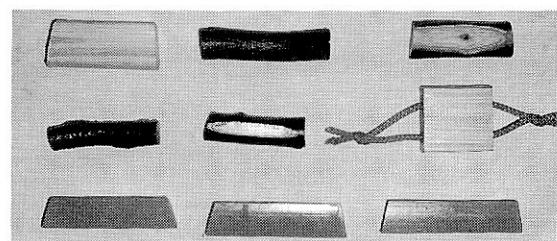
- 2) 両端は浅く 中心部で2mm程の深さに削る。

- 3) 裏側は安定の良いように水平に削る。

- 4) 両端から10mm入った所から5mm程外側に向かって切る。

- 5) 小刀で面取り、小筆で水性ニスを全体に塗り、乾かして完成。

III. 木の箸置は暖かみが感じられます。竹で作る時は少し巾を広めにし、中心部に窪みをつけない方がよいでしょう。



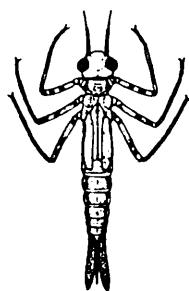
「豊田市自然観察の森」からの便り

トンボの観察に来てください

尾張支部 長尾 智

当園では今までに、37種類のトンボの仲間が記録されています。園内には、細い谷川・田の水面・約1.5haの上池など、変化に富んだ水域が存在するからだと思われます。5~6月には、その内23種類が観察されます。

細い谷川に沿っては、カワトンボがよく見られます。幼虫は流水を好み、水草などにつかまって生活しています。普通のヤゴと違って、団のように細長い体形をしています。



カワトンボの幼虫

ハッチョウトンボは、一昨年前には数頭が見られる程度でしたが、昨年は20頭もの群が観察されました。荒れた休耕田を整備し、開けた湿地の面積を増やしたためでしょうか。日本の

トンボ中最小型種のかわいいトンボです。

体長8.3mm程のオオヤマトンボが、時々上池の周辺をまわって飛んでいます。ハッチョウトンボこれは成熟した雄が縄張りを主張してパトロールしているのです。この性質を利用し、おとりのトンボを使って誘き寄せ、網で捕まえることもできるそうです。



下に5~6月に見られるトンボを列記します。

キイトンボ・クロイトンボ・ホシミイトンボ・モートントンボ・モノサントンボ・オオアオイトンボ・ホリミオツネントンボ・カワトンボ・ムカシヤンマ・ヤマサナエ・サラサヤンマ・ヤブヤンマ・ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・オオヤマトンボ・ハラビロトンボ・シオヤトンボ・シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・ハッチョウトンボ・ショウジョウトンボ・ヒメアカネ・コシアキトンボ

『岩倉の自然をたずねて』増補版発刊の案内

昨年、岩倉市が、市制20周年記念事業の一環として、「21世紀を生きる子供たちのために自然からのメッセージ 岩倉の自然をたずねて」と題する自然紹介誌を発刊しましたが、編集に携わった自然観察指導員などが参加している岩倉ナチュラリストクラブが、その後行った市内の動植物調査の結果や会員を始め自然に関心のある人々から投稿された自然との関わりのエッセイなどを加えて、独自に増補版「岩倉の自然をたずねて」を発刊しました。

この本は、B5版 117頁で、第1部エッセイ編と第2部資料編から成っています。

岩倉は自然が豊かなまちとはいえませんが、土地区画整理や土地改良事業が進み、農地や樹林地などの身近な自然が消失しつつあり、このような調査結果は貴重な資料になるものと期待されています。

増補版は、希望者には1部 980円で頒布しています。

[問合先]

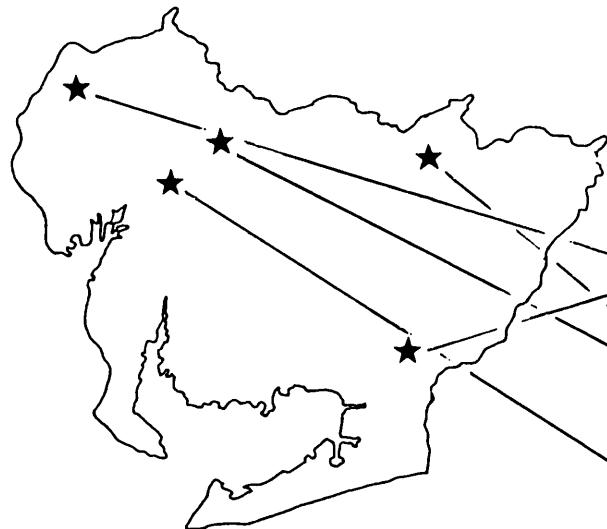
美浦俊一 ☎0587-37-0397

なお、本編は、岩倉市公民館（☎482 岩倉市昭和町2-17 ☎0587-37-0257）にて1部3000円で頒布しています。

(報告：齊竹)

私の自然

いつもの風景 季節のこと
 庭の植物 山のこと
 海のこと 雑木林のこと
などお知らせください。



稻葉美代子さん

後藤 春さん

佐藤国彦さん

白木幹司さん

森林公園植物園の花（尾張旭市）

H5. 5. 7

佐藤 国彦

緑が色濃くなり始めた5月初めに、森林公園の植物園を歩いて、目に付いた花をまとめてみました。林縁、路傍に見られる植物です。

ヤマツツジ・コバノガマズミ・ミヤマガマズミ(咲き終り)・コナラ(咲き終り)・アラカシ・サワフタギ(咲き始め)・トウカイタンポポ・セイヨウタンポポ・ジシバリ・オオジシバリ・ハルジョオン・オニタビラコ・ニガナ・キュウリグサ・ハハコグサ・ハコベ・ムラサキサギゴケ・ニワゼキショウ・ヘビイチゴ・ツボスミレ・ハルリンドウ

また、つぼみを付けていた樹木に、カマツカ・ガマズミ・イボタノキ・ヤマウルシなどがありました。

稲武野外学習センター周辺の花（稲武町）

H5. 5. 6

佐藤 国彦

新緑を楽しみながら足助町を通って、伊勢神トンネルを抜けると、急に若葉が減ってスギ・ヒノキの林が殆どになります。発電所から国道を離れて、着いた稲武野外学習センター周辺も新緑の少ない淋しい景観でした。そこで見た花は、次のとおりです。

シロモジ・ニワトコ・コバノミツバツツジ・モミジイチゴ・ミミナグサ・タチツボスミレ・ヘビイチゴ・ニリンソウ・ネコノメソウ・ワサビ



豊橋市東小浜町　私の散歩道

H 5. 4. 5 稲葉 美代子

今日は足をのばし石巻西川町へカタクリの花を見に行く。花言葉「初恋」·····

「もののふのハナをとめらが吸みまがふ寺井の上のカタカゴの花」（万葉集大伴家持）

大きな栗の木の下で、いち早く春を告げる花桜、開花10日前が見頃とか。西日が射す木の下に紅紫色の花が映える。斑入りの二枚の葉の間から花柄をのばし、六片の花びらを精いっぱい反り返らせて咲いている。

「うわーきれい！」しばらくうつとり。

喜んでいるような、俯き加減で何か囁いているような姿。花を咲かせ種を実らせ地に返す。木々に緑が繁る頃、葉も枯れ地上から姿を消し、長い休眠期に入るとか·····

一抹の寂しさを感じさせる花。

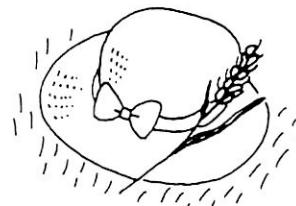
10年前初めて訪ねたときは、あなたと私が知っているような静かな山里。道もデコボコ、道端にはツクシがいっぱい、山の麓に大きなアセビが白い花を咲かせていたが今そこに立派な公民館が建った。カタクリ山の

案内板も立ち、鑑賞に訪れる人が後を絶たない。5年前に一株のニリンソウを見つけた。紅紫色のカタクリの花に混じって白い花が印象的だった。今年もそこに株を太らせ、確かに花を咲かせていた。思わず「ごきげんよう！」訪れる方が自然を愛しているんだなと嬉しく思った。

屋台の団子の匂いが漂っていた。

···想い出···

冷たい風が頬を撫でる頃、やっと頭を出したツクシを摘む。指先をまくろにして···ゴマ和え、油いためにして食べたほろ苦い味が懐かしい。



カタクリ山のカタクリ



右手奥にエノキ・タブノキ・コナラ

尾西方面のドングリの木 No.2

後藤 春

平成4年11月下旬、中日新聞にドングリ拾いの子供の写真が載っていました。西五城、起境とあり、私はその場所がわからないので尾西市に住む友人に案内を頼み、出かけました。起宿跡の木曽川堤に近い神明社の境内は広く、30m程の少し土盛りされた横に、一抱えものコナラが2本あり、枝を広げ美しく紅葉していました。その他にタブノキ、エノキが2本、古色を感じる老樹がありました。

12月21日、第一中学の西にある御裳神社（織物の町らしい名前）は、社殿は新しいのですが、クスノキ、イチョウ、クロガネモチ等大木があり、コナラも2本見られました。

12月27日、家から少し南西へと道をたどり、萩原から西萩原へと走らせると、何となく起伏を感じるあたり、少し明るい神域へ出ました。その明るさをもっと明るくしていたのは、なんとナラガシワの葉の色でした。参道わきの灯籠の間に二もとの3本株立ちと、1本立ちの樹形は中位です。私は思いがけない出合に胸がおどりました。



灯籠の間にナラガシワ

山崎川ウォッチング 白木 幹司
……千種区・昭和区の区間の魚と鳥など……

山崎川は平和公園や東山公園あたりの丘陵地の猫洞池と鏡池に源を発し、排水溝や暗渠を通って田代本通をくぐって、やっと二面コンクリートの川となります。

私が汐路小学校の3年生だった昭和15年の頃、今は瑞穂区になった石川橋の辺りは、白いミズワタがヌルヌルのドブ川で、先生が「山崎川に入ると、ツルッ！ ベタン！ キュー！ と滑って転ぶゾ！」と注意していたのを覚えています。その頃の山崎川は家庭排水をタレ流すドブ川だったのでしょう。

ところが、この都市の真ん中の川も、今まで、水ぬるむ3月から10月まで、オイカワの大群に占領されます。やや深い淵状の所は、放流されたコイが泳ぎ、浅い瀬や特に瀬尻の

辺りには、所狭しとオイカワがミズアカをついて、白い体側をキラッキラッと輝かせて、川じゅう一杯に活気が満ちあふれます。

そして、このオイカワを狙って、コサギやゴイサギが、たまには何とカワセミまで現れます。もっと驚いたのはアオダイショウです。昨年の夏のある朝、その蛇が、水際のブロックのくぼみに体を支えて、首をユラユラと揺らしながら、すぐ下の水中を動き回る魚たちを狙っているのです。胴体を鰐腹にしてまだ未練がましく、飽食しようとしているのです。明るくなったら魚の眼のほうがよく見えるのだから「早く、車に踏まれないように、縁の下か、天井裏にかくれなさい！ また腹が減ったら、夜中に出てきたらいいのに！」と私は心配でたまらないのに、蛇には時間の感覚がないみたいでした。

岳見高原自然観察会 開催日程

NO	開催日 曜日	内 容 (観察のポイント)
4	5月 9日 (日)	春の自然に親しもう。(春の草花、林の種類)
5	6月 13日 (日)	湿地の生物のぞいてみよう。(湿地の植物、昆虫、地質)
6	7月 11日 (日)	谷川の自然に親しもう。(谷川の生物、野鳥の観察)
7	9月 12日 (日)	土の中の世界を見てみよう。(土中の生物、地質)
8	10月 10日 (日)	秋の自然に親しもう。(紅葉と秋の草花、昆虫)

観察場所／名古屋市青少年野外活動センター・岳見高原キャンプ場および周辺
岐阜県瑞浪市大湫町深山

集合解散場所／J R中央線 釜戸駅前 午前10時集合～ 午後4時30分解散

定員／各回30名 参加費／資料代、保険代として一人500円(JYS会員会友 300円)

参加資格／青少年、家族、小学校4学年以下は保護者の同伴が必要です。

※自然観察会では動植物等の採取は致しません。

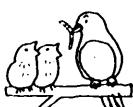
※雨天の場合でも開催致します。ただし、天気予報で警報がでた場合は中止します。

服装・持ち物／昼食、水筒、筆記具、あれば双眼鏡、ルーペ、図鑑等。
はきなれた靴で、軽装で山道を歩ける服装、雨具。

受付／各回とも開催の2ヶ月前から1週間前までに郵便葉書(住所、氏名、年令、PHONEを明記)でお申し込み下さい。参加費は当日受付で徴収致します。

申込み先／〒453-91名古屋市中村郵便局私書箱18号 日本ユースセミナー協会TEL(052)262-1766

主催／日本ユースセミナー協会 (J Y S) 後援／愛知県自然観察指導員連絡協議会
主管／岳見高原自然観察会運営委員会 日本野鳥の会愛知県支部



事務局から

〔運営部会〕

★ 総会の結果（出席：37名）

期日：平成5年3月21日

場所：竜美ヶ丘会館（岡崎市）

議案：①平成4年度事業報告、②平成4年度決算、③平成5年度事業計画
④平成5年度予算、⑤役員の改選

通例の事業報告や事業計画等の4つの議案（内容は、前回配布したもの）は、すべて承認されました。また、今年度は役員の改選期に当るため、役員の改選が行われ、理事会原案の会長に大竹勝、副会長に竹内哲也・中西正、監事に水鳥富人・篠田陽作の各氏が選出されました。監事の篠田さんは新任です。

総会終了後は、神奈川県横須賀市立博物館の大場信義氏の「ホタルから見た自然」と題する講演が行われました。スライドを交えて（映写には事務局のそそうもありましたが）、興味深いホタルの生態等を話していただきました。

また、会議終了後は、有志で近くの居酒屋に行き、懇親をはかりました。

★ 平成5年度役員

会長：大竹 勝

副会長：竹内哲也・中西 正

監事：水鳥富人・篠田陽作

運営部会長：佐藤国彦

普及部会長：山田博一

調査部会長：北岡明彦

編集部会長：伏屋光信

名古屋支部長：浅井聰司

尾張支部長：平井直人

知多支部長：加藤寿芽

西三河支部長：山原勇雄

東三河支部長：丸山 嵩

奥三河支部長：石川静雄

〔普及部会〕

★ 自然観察会への参加について

5月30日及び6月6日には、県内6カ所（東谷山、定光寺、任坊山、王滝渓谷、権現の森、岩小屋山）で全県一斉自然観察会が開かれます。また、5月8日に行われた知多支部の野間海岸を始めとして、秋までに6カ所の県委託の自然観察会が行われます。その他、市町村等からの依頼による観察会も数多くあります。

多くの会員の参加があってこそ、観察会の内容もよくなると思われますので、皆様方の参加を期待しています。観察指導はどうもという方は、受付でも交通整理でもかまいませんし、参加者として来ていただけて、観察会に対する御意見を出していただければ参考になります。

★ 自然観察会のテキスト集

昭和62年から平成3年の自然観察会のテキスト集（B5版、96ページ）をまとめました。各支部にも1部配布しますが、会員で希望する方があればお送りします。コピー代と送料合算で550円（内送料250円）を添えて（キッテでも可）、佐藤国彦まで申し込んで下さい。

〔編集部会〕

編集者の交替により、新たに協議会ニュースの発行に取り組んでいますが、仕事に追われたりして、発行が遅れていることをお詫びします。なお、一宮市に近い場所にお住まいの方で、ワープロ打ちなどを助けて戴ける人がありましたら、伏屋(0586-61-4132)まで御連絡くだされば幸いです。

また、年報（愛知の自然観察）も遅れていますが、7月には何とかお届けしたいと思っています。年報らしい内容のものをと

いろいろ考えてまとめていますが、来年度の編集に御協力下さる方はいませんか。

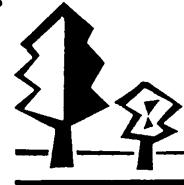
[調査部会]

調査部会の第1テーマであるブナ科樹木分布調査は、ついに最終年に突入し、まとめの段階に入りました。しかし、知多・東三河・名古屋地区等にはまだ空白部分が多くて、全県均一な調査となっていないのは本当に残念です。秋ぐらいには、調査部会

で集中的に調査をすることも考えていますが、それまでにこれらの地域に住んでいる会員の御援助を期待しています。

未調査メッシュの地図や調査票が必要な場合は北岡(0561-84-2953)まで御連絡いただければお送りいたします。

何としても、平成5年度末までに報告書を作成すべく張り切っていますが、協議会の力を示すときでもありますので、最後の御協力をお願いします。



シイ・カシの仲間を調べよう！

☆ 葉の形から

種名	葉の裏	鋸歯	葉縁	葉柄	樹皮
シイ	やや光沢ある金褐色	先端部に少数欠刻状鋸歯		0.5~1cm	灰黒色、(若)平滑、(老)縦に割目
アカガシ	光沢ある緑色	なし	ゆるく波打つ	2~3cm	茶黒色、(老)薄片にはがれる
ツクバネ ガシ	光沢ある緑色	先端部に少数弱い鋸歯	内側に巻く	0.5~1cm	灰黒色、縦の浅い割目 縦に並ぶ細かい皮目
アラガシ	白色 (爪でとれる)	前半部1/3に明確な鋸歯		1.5~2.5cm	灰黒色、皮目による凹凸と浅い割目
シラカシ	やや白色(爪でとれない)	前半部3/3~1/2に弱い鋸歯		1~2cm	濃灰色、縦に列生する皮目
ウラジロ ガシ	白色(爪でとれる)	前半部3/3~1/2に明確な鋸歯	ゆるく波打つ	1~2cm	灰黒色、白色の細かい皮目、割目無し
イチイガシ	淡褐色の綿毛密生	前半部1/3に明確な鋸歯		1~1.5cm	灰褐色、薄片にはがれて波状の模様ができる

☆ どんぐり

ドングリの見分けたかのポイントは、次のような点があります。

- ①皿の形状(模様など)
- ②全体の形
- ③先端の突起の形
- ④大きさ
- ⑤毛の有無

「自然観察指導員の集い」から

佐藤国彦（運営部会長）

平成5年3月6日～7日に、東京の小原流会館で、全国自然観察指導員の集いが日本自然保護協会の主催で開かれました。そのうち6日の各地からの提言の部分に出席しましたので、その概要を次にまとめてみます。

● 「今なぜ自然観察か」

菊屋奈良義氏（大分県）

今の学生は、自然を単に美しいものとしてのみ理解しており、自然が「生き物の生存競争の世界」であるという認識に掛けている。

これを補うためには、自然体験が必要である。自然観察会は、この体験するということに価値がある。従って、勉強会ではなく、楽しみながら体験することが大切である。そこでは、自然科学だけでなく、総合的な日（芸術、生活等を含めた）で自然を見ることが大切であり、その体験が文化として継続していくことが望ましい。

「またこようね。今度はいつ。」と言われるもの。

● 「連絡会の運営について」

武部正彦（神奈川県）

神奈川県の場合、活動方針として4つの柱を考えている。

①観察会を通じて、自然を大切に思う人、大切にする人を育てる。そのため、友の会をつくり参加者を常に引き入れ、新しい指導員の誕生を考えている。

②研修を通じて指導員の養成を図る。観察会も練習の場として生かす。

③県内の他団体を含めた交流の場を設けるなど、他の運動の応援をする。

④人づくり、街づくりへの提言をして、情報収集や調査などを行う。

● 「たのしい自然観察」

植原 彰氏（山梨県）

楽しさの条件とはなんだろうか。楽しいことにこだわると、こちらが楽しくなくなる。試行錯誤の中から、自分に合うもの、自分の心にかなうものを選べばよい。そして、参加者に何が楽しかったかをいつも聞いてみるのも大切であり、そこに工夫が生まれる。また、人まねもやがては主体性につなげることができる。

初心者の負担軽減のための工夫として、ポイントでの説明だけで歩いているうちは特に説明しないとか、半日で済む短い観察会とするなどが考えられる。

● 「自然観察の考え方」

一寸木 鑑氏（普及委員）

「いつでも、どこでも、誰とでも」を講習会のモットーとしている。そして、講習会や自然観察会は、自然保護の精神をもっている必要がある。自然保護へどのようにつなげるかを、問題意識として持ちたい。

自然観察会では、発見の喜び、探す面白さを多く引き出したい。そのためには、観察指導の切り口を変えることも有効な方法である。対象は同じでも扱い方しだいで、楽しくなり、つまらなくなる。

以上の提言を受けて、7日の分科会でいろいろな討議がなされたようですが、今回は結論を出すというより、多くの意見を聞く会という雰囲気でした。

情報コーナー

[行事案内]

● 「ネーチャーゲーム初級指導員養成講座」

期日：平成5年7月9日～11日

場所：愛知青少年公園（長久手町）

主催：日本ネーチャーゲーム協会

定員：50名 受講料：24,000円

問合先：同実行委員会（052-221-6080）

● 「自然観察指導員講習会」

期日：平成5年10月9日～11日

場所：伊良湖国民休暇村（渥美町）

主催：愛知県自然保護課・日本自然保護
協会

※ 申込は、8月初め頃になる見込。詳
くは協議会事務局（佐藤）までお問い合わせ下さい。

会員の動き

【脱退】

古川千枝子（尾張支部）

【住所変更】

家城 司（名古屋支部）

〒464 名古屋市千種区希望ヶ丘 1-3
6-103号

猪狩雅史（東三河支部）

〒440 豊橋市西小鷹野3丁目 6-12
ヴィラ小鷹野101号

近藤義裕（尾張支部）

〒493 木曾川町黒田字北宿三ノ切 83-1
(0586-87-7938)

渡辺由美（名古屋支部）

〒470-21 東浦町緒川字屋敷式区 108-2
(0562-84-1452)



※44号の稻垣美代子さんは稻葉美代子さんで
した。おわびして訂正させていただきます。

☆編集後期☆

★まだまだ慣れない仕事で発行が遅れ、ご迷惑をおかけしております。

各支部から何通もの支部だよりをいただきありがとうございました。

愛知県のたくさんのところで一生懸命（手弁当で）、自然観察の普及
や研究に取り組んでおられる指導員のみなさんの姿がわかります。すご
いことだな、と思います。

★「私の自然」、「支部の活動のようす」などお送りください。次回の
発行は7月です。6月の20日頃までにお願いします。

★原稿送付先

編集部会 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 ☎0586-61-4132



6月～7月の行事案内

★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考

「6月6日（日）定光寺観察会」

- ①尾張支部 ②JR定光寺駅前9:30
- ③大谷敏和 ☎0572-23-6907
- ④トトロの森をさがそう！



「6月6日（日）田原町権現の森観察会」

- ①東三河支部 ②権現の森駐車場9:30
- ④トトロの森をさがそう！

「6月6日（日）東谷山自然観察会」

- ①名古屋支部 ②フルーツパーク本館前9:30
- ④トトロの森をさがそう！

「6月6日（日）任坊山公園観察会」

- ①知多支部 ②半田市立博物館前9:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④トトロの森をさがそう！

「6月11日（金）川や池の生物観察」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④あらかじめ採集したものを顕微鏡で観察

「6月12日（土）藤原岳観察会」

- ①尾張支部 ②近鉄名古屋駅7:31発の急行
- ③北岡明彦 ☎0561-84-2953
- ④初夏の藤原岳が待ってるぜ！
- ⑥弁当持参

「6月12・13日（土・日）ホタル観察会」

- ①自然の学校 ②鳳来町・山の家
- ③相地 満 ☎052-671-4598

「6月13日（日）大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998

「6月20日（日）身近な人里で自然観察」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855

「6月20日（日）姫島自然観察会」

- ①奥三河支部 ②田原町白谷漁協11:00

「7月4日（日）善師野観察会」

- ①尾張支部 ②名鉄善師野駅9:00
- ③山田博一 ☎0574-65-1541
- ④桑畑でカミキリムシを探そう！

「7月9日（金）身近な植物利用の研修会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館16:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④草木染、薬草など ⑤500円

「7月11日（日）大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998

「7月11日（日）身近な人里で自然観察」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855

「7月25日（日）大入渓谷自然観察会」

- ①奥三河支部
- ②JR飯田線うらかわ駅前10:30

「7月25日（日）川の生物観察会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館8:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④阿久比川と明徳寺川の環境調査

